

小中一貫教育推進だより



平成 25 年 3 月 19 日 No. 23
十日町市教育委員会学校教育課



独立自尊 ～2年間の試行を振り返って思うこと

学校教育課長補佐・小中一貫教育推進係長
笠原 実

「暑さ寒さも彼岸まで」と言うように過ごしやすいく所となりました。希望を胸に巣立つ卒業生のたくましい姿に、保護者も指導者も感慨ひとしおのことと思います。

さて、私こと、昨年 10 月 18 日に、新潟大学教育学部附属長岡校園が主催する教育研究協議会の一貫教育フォーラムにパネリストとして参加し、十日町市の小中一貫教育について紹介する機会がありました。その際、会場となった附属長岡小学校の体育館の壁には、同校の教育目標である「独立自尊」の書が額に入れて飾ってありました。

この「独立自尊」という言葉は、福澤諭吉による成語とされ、「他人に頼らず自分の力だけで事を行い、自己の人格・尊厳を保つこと。」という意味とされています。(三省堂新明解四字熟語辞典による)

ところで、十日町市が小中一貫教育で目指す子どもの姿は、「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」です。「自立して社会で生きる」ためには、知・徳・体の 3 つがどれ 1 つ欠けてももうまくいかないと思います。作成されたそれぞれの中学校区のランドデザインを見ますと、いずれも「自立した姿」が将来像に描かれています。

私は、昨年 3 月 23 日発行の「つながる 11 号」で、福澤の「学問のすすめ」の言葉を引用して、「子どもたちに学ぶことの必要性和楽しさを教えてあげたい」と拙文を書きました。その思いは、1 年たった今、さらに強くなっています。「知の自立」には、教師を含む周囲から与えられた問題をただこなしていくだけではなく、なぜ学ぶのか、学ぶことの必要性を理解し、自ら問題を探し出し、自らその問題を解決していくような気力と、学ぶ中で新しいことがわかることの楽しさを味わうことが必要であると思っています。

また、福澤は、「独立自尊」の反対語として、「共生他尊」という言葉を使っています。それは、人を思いやりながら共に生きるという意味です。福澤は、まず、一人一人の違いを認め、他人を認めることから出発しないと、「独立自尊」は実践することができないと言っています。(笠原解釈による「徳の自立」)

小中一貫教育のさまざまな活動を通じて、子どもたちは他人とのかかわり方を学び、教職員も校種を越えて子どもたちとのかかわり方を学んでいます。4 月には、十日町小学校に併設する形で市立ふれあいの丘支援学校が開校します。1 つの校舎で共に学び、お互いを思いやる心を育む「共生」の理念を教育で実践する新しい形態の学校です。この機会に、「自立」と「共生」について考えてみていただきたいと思っています。

結びになりますが、小中一貫教育の 2 年間の試行で、いくつかの成果と課題がありました(本号 4 頁)。平成 25 年度は、平成 26 年度からの全ての中学校区における本格実施を見据えての、試行最終年度となります。小中一貫教育の導入の効果をはかるために、子ども、教職員及び保護者へのアンケートを中心とした評価を始めます。「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」を育成するために、皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

動き始めた平成24年度

～モデル中学校区以外の中学校区～

本年度は、モデル中学校区以外の中学校区でも、推進会議を立ち上げ、グランドデザインを作成するなど、具体的な取組が始まった年度です。取組を通しての感想、提言などを各中学校区の方々から届けていただきました。



<松之山地区学校保健委員会>

吉田中学校区における小中一貫教育の実現に向けて

吉田小学校 山崎喜久治（校長）

当地区（吉田中・鏡島小・吉田小）は、これまでも様々な場面で小中連携や小小連携を進めている。それらをさらに発展・充実させるため、吉田地区教育振興会を中心に、小中一貫教育の本格実施の準備を進めている。振興会では、「学力向上」、「強い体」、「豊かな心」の3部会に全教職員を割り当て、小中一体となって取り組んでいる。今後は、今年度の反省を受けて、PTAを巻き込んだ試行最終年度の計画を作成し、振興会総会に提案する予定である。

当地区の「小中連携」は、陸上競技・クロスカントリースキー競技における活躍に象徴される。両小学校で基礎・基本を学び、中学校でより高いレベルを目指して練習に取り組む。卒業後も全国や世界で活躍する選手を輩出している。当地区にはスポーツを柱とした教育に対する協力体制が整っている。全会員が小中一貫教育を強く意識し、知徳体のバランスのとれた子どもの育成に取り組みたい。

進学指導委員会設立でめざすもの

水沢小学校 千村敦司（教諭）

水沢中学校区では、中学校進学後に不登校傾向を示す心配のある児童や細かな情報伝達を要する児童等について、情報交換と指導の在り方を語り合うことができるように、進学指導委員会を立ち上げた。6年生担任とその児童を受け持つであろう中学校教諭、養護教諭、管理職が参加して、年2回開催している。年度の早い時期からの参観と、紙面ではなく、小中職員が顔を合わせた上での児童の共通理解を行っている。

小中の職員が、「学校文化の違い」というギャップをそのままにしていると、結局は、一番言いたことは言わないで終わってしまい、信頼感も深まらない恐れがある。とことん議論する場面を経てこそ、深い相互理解と信頼が生まれると考えている。

幸い、一昨年来続けてきた小グループ研修を経て、3校の職員の気心が知れてきたところである。忌憚なく本音で語り合うことで、各校職員が「不登校防止」という課題を共有する1つのチームとなり、行動連携していくことをめざしている。

26年度に向けて一歩ずつ

西小学校 諏訪部淳子（教諭）

今年度はグランドデザインの作成を中心に取り組んできました。南中・川治小・西小の各校で児童・生徒の課題や期待する姿を話し合い、その内容を持ち寄って作成したグランドデザインの柱は、「確かな学力」と「自立と社会性」です。グランドデザインを作成するにあたっては、実践する内容が明確であること、そして、これまで中学校区で取り組んできたものを最大限に生かし、充実させていくことを心がけました。

南中学校区の児童・生徒は850人ほどと大所帯です。年齢の若い教職員も多数います。一堂に会して交流したり、協議したりする場と時間を設定しにくい状況だからこそ、求められるのは、共通した思いで、それぞれの学校・立場で実践をしていくことです。限られた時間の中で、「共通した思い」をいかに作っていくか、これが今年度難しいと思ったことであり、今後の課題でもあります。

確かなリーダー性と全職員の協同性、そして何よりも互いの学校の子どもたちへの愛情の大切さを感じた1年でした。

拡大中学校区試行の2年間

中条中学校 石川智雄（教諭）

4つの小学校と2つの中学校からなる拡大中学校区。平成24年度の児童・生徒の合計は1,247名（市の約30%）、職員数は103名（約23%）とその割合は大きく、その与える影響は大きい学区であるといえる。以前からそれぞれの中学校区で「小中連携」は推進していた。十日町中学校と中条中学校の拡大中学校区は地域も広く、これまでの中学校区の独自性を生かしながら、共通した取組をいかに推進していくかが大きな課題であった。「緩やかな連携」を合い言葉に、校長部会や推進部会が協議を重ね、継続可能で無理のない活動をスムーズに行っている。今年度は8月末にその取組を保護者や地域にPRすべくリーフレットを作成して発信した。今後は、拡大中学校区の理念を各校の教育活動にいかに生かし、これまで根付いた教育活動と関連付けるか…。保護者組織との連携を深め、本当の意味でこれからがスタートとなる。

夢つなぐ架け橋

松之山中学校 志賀旭（教育助手）

本年度から、教育助手として、生まれ育った松之山中学校区の小中一貫教育に携わっています。各校での学力不足、学級不適應傾向のある児童・生徒の指導・支援補助や小中一貫教育推進のための情報収集、中学校区「総合的な学習の時間カリキュラム」作成への参画等を行っています。少子化から一層児童・生徒数の少ない状態にありますが、子どもたちの元気な姿、笑顔は校区内の各校で以前と変わらずあふれています。校区内の児童・生徒がふれあう場面は私が過ごした小・中学校時代より確実に多くなり、十日町市の夢である「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」実現に向けた小・中のつながりある教育活動は確実に前進していると感じています。

将来は、教員を目指していますが、子どもたちをつなぐ架け橋役を担った経験は、きっと私の夢実現への架け橋にもなったと自負しています。26年度の本格実施を、地域住民の一人として楽しみにしています。

2年間の試行の成果と課題

平成 23 年度以来、モデル中学校区を中心に熱心に小中一貫教育に取り組んでいただきました。2年間の試行で、以下のような成果と課題がみられました。

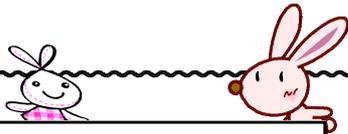
この成果と課題を、平成 25 年度の試行最後の年の取組に生かしていきたいものです。

成果

- (1) それぞれの中学校区において、小・中学校間の児童・生徒、教職員及び保護者の交流が進み、特に教職員は、9年間のつながりの意識が高まり、相互理解が深まった。
- (2) 交流により、児童・生徒はかかわることの良さを感じたり、自己有用感が高まったりした。
- (3) 進学に不安を感じる小学生や、中学校1年生で新たな不登校になる生徒の割合が減少するなど、中1ギャップと言われる問題が減少傾向にあり、小学校から中学校へのスムーズな移行が進みつつある。
- (4) モデル中学校区では、様々な取組を試行しながら、9年間の系統的な指導計画をはじめ、平成26年度以降の本格的な実施計画を作成した。
- (5) モデル中学校区以外の中学校区でも、モデル中学校区を参考にグランドデザインを作成するなど、小中一貫教育にかかわる取組を始めた。
- (6) 家庭や地域、保育所・幼稚園、高校などと連携した取組が動き始めた。

課題

- (1) 中学校区内のこれまでの様々な取組について、小中一貫教育を柱に据えた再構築が進められてきたが、より充実した取組にするため、「『一貫すること』と『連携すること』が整理されているか」、「継続可能な内容か」、「職員一人一人が何をしたら良いか分かる内容か」、「『中学校区の小中一貫教育に関する取組』と『各校の学校評価や研究等』が互いに関連し機能し合うようになっているか」、などの視点で) さらに検討・改善が必要である。
- (2) 全職員の共通理解、共通姿勢の下で計画を推進できるよう、さらに工夫・改善が必要である。
- (3) 校長のリーダーシップの下、学力の向上、不登校の解消等を目指した取組がより充実したものとなるよう、さらに取組を工夫していくことが大切である。
- (4) 小中一貫教育の意義や取組を広く保護者・地域にまで浸透させるため、広報活動等の工夫が期待される。
- (5) 教職員の多忙感がまだ続いており、学校や中学校区の取組の工夫や、市教育委員会の支援が今後も必要である。



しゅっちゅう一貫
耳より情報

＜4月にはこんな 研修会 が予定されています！！＞

＜新任・転任教職員研修＞

＜日 時＞ 4月 10日（水）・11日（木）・12日（金）の3日のうちの希望する日
14：00～16：45

＜会 場＞十日町情報館

＜コーディネーター研修＞

＜日 時＞ 4月 17日（水）
モデル中学校区 13：25～14：55
モデル中学校区以外 15：15～16：45

＜会 場＞十日町市川西庁舎



＜コーディネーター研修＞



モデル中学校区等4月の活動予定



毎月ここに掲載している活動予定は、どなたでもその活動を見ていただけるように紹介しているものです。平成 25 年度からは、モデル中学校区だけでなく、全市内中学校区の小中一貫教育にかかわる活動を紹介していきます。時間を見つけて、ぜひお出掛けください。その際には、当該学校へ一声掛けてからお出掛けください。

日時＜内容＞	会 場	見 どころ
12日（金） ＜川西地域教職員協議会総会＞ 午後（時刻未定）	千手中央コミュニティーセンター	・年度はじめに、川西中学校区の職員が一堂に会し、小中一貫教育の意義の理解を深めたり、部会毎に年度の取組の確認をしたりします。
18日（木） ＜合同職員会議＞ 15:00～16:30	下条中学校 ランチルーム	・25年度1回目の中学校区の合同職員会議です。前年度の取組の振り返りをもとにした25年度の取組の確認と検討を行います。
24日（水） ＜水沢地区教職員協議会総会＞ 午後（時刻未定）	二葉家	・中学校区の職員が一堂に会し、水沢中学校区における小中一貫教育の方向や具体的な取組の確認と検討を行います。